



「がん」はどうしてできるの

がんは体の細ぼうが変化してできる

わたしたちの体は、細ぼうとよばれる小さな単位がたくさん集まってできています。

この細ぼうの1つが、何かの原因で体に必要のないものになってふえはじめ、周りの正常な細ぼうをおしのけて成長します。そして、体の中に広がって体を弱らせ、最後には死亡させることが起こります。これが「がん」です。

がんの原因はいろいろ

がんの原因は、内部と外部からの二つの面が考えられます。

内部の原因は、ホルモンの異常や遺伝子の異常などが考えられます。

外部の原因は実に多く、最も大きな原因と考えられているのは、食事、たばこ、お酒です。

たとえば、日本人は胃がんが多いのですが、これは塩分の取りすぎが原因と考えられています。また、肉類などの取りすぎは大腸がん、乳がんなどを、たばこは肺がん、こう頭がんなどを、お酒は肝臓のがんなどをおこすといわれています。

このほか、紫外線や、X（エックス）線などの放射線、ある種のウイルス、化学物質なども、がんの原因と考えられています。（監修 保志 宏）

